

第2回農林水産統計の広報・公表及び利活用の改善に関するアドバイザリーグループ懇談会議事概要

1 日 時：平成17年4月19日（火）10:00～14:00

2 場 所：農林水産省統計部第1会議室

3 出席者：委員 安倍澄子、古賀雅隆、西村良平、野村一正、平野芳郎、
藤井喜継、細谷章、吉田泰治

有識者 合瀬宏毅

大臣官房統計部 統計部長、統計企画課長 他

4 議 事：

(1) 広報・公表の相手側として想定するイメージとそれに見合った統計のあり方について

(2) 速報、報告書、年報等公表物(主にペーパーメディア)の改善について

(3) その他

5 議事概要

事務局から広報・公表の相手側として想定するイメージとそれに見合った統計のあり方、ペーパーメディアによる広報・公表の現状と改善方向等について説明し、委員等から意見を求めた。

(1) 広報・公表の相手側として想定するイメージとそれに見合った統計のあり方について

事務局が提示した広報・公表の相手側として想定するイメージとそれに見合った統計のあり方の案に対し、

イメージにあった統計のあり方では、情報の種類としては速報性なのか資料性なのか。それとも資料性としては深さはどうか。幅はどうかという観点で整理するともっと先に役立つものとなる。

教育の関係、学校の先生と子供という視点が必要でないか。また、生産者、食品加工等の企業、地方議員等はどう取り扱うのか。

地方自治体としては、地域別のデータが必要である。

マスコミ・報道としては、恒常的なレファレンスサービスへのニーズが非常に強いと思う。そこに関してうまくまとめられ、提供いただくと中央官庁の統計情報がすごく役に立つ。

研究者・研究機関としては、統計の継続性・連続性・専門性といった点が必要なところである。

速報性を大事にして、政策等のニーズに合わせて改善していくことは大事であり、使ってもらえないと政策ニーズにマッチした統計になっていかない。

データの正確性、客観性に加えて、速報性が大切。発表までの期間が長いと、思惑が入ったりして市場が動揺することがある。

農林水産省は生産者のために情報を提供しているというスタンスは、きちりと持つべきではないか。

表のマスコミ・報道関係者から上は、情報の開示とあるように、国民全体にかけてどのような形で何を農林水産省としてどう伝えたいのか、そのキーをきちり考えていかないと、一生懸命努力した割に見てもらえないし、ちょっとずれた情報の提供になってしまう。

広報・公表の相手側をこのようにカテゴリー別に出されると、自分のもらったデータと他の人がもらったデータとが違うのではないかという気がする。内部資料として整理されているのだろうが、対外的に出す場合は工夫をすべき。

等の意見が出された。

これを受け事務局は、本資料が対外的に誤解を招かないような工夫をする、また、今回の意見を反映した改訂版を作成し次回に提示することとした。

(2) 速報、報告書、年報等公表物(主にペーパーメディア)の改善について

事務局が提示したペーパーメディアによる広報・公表の現状と改善の方向の案に対し、

誰に向けて出しているのかはっきり整理して、その人にきちんと届くようにする必要はある。

速報をもらっても何処に注目すればいいのか、どの位注目すべきデータなのかということが分からない。

今回公表はこれまでの結果とどこが違って、どこが大事かというメッセージがあるといい。ニーズにマッチした形でのプラス の情報があるといい。

マスコミとしては企画ものがほしい。

電子メディアとりわけデータベースの整備は、これからの大きなテーマであり、非常に使い易いことを目指していかなければならないが、そういうことを考えると、ペーパーメディアは、目的をしっかりと持たないと無駄が多くなる。

ペーパーメディアは、マスコミ、広い国民、農業者のニーズにあった情報、インパクトのある表現が必要。

「プル型のメディアへの誘導」、「他の媒体との融合」、「知りたいという誘惑」が大事。

ペーパーメディアだと、そのままコピーしても使えるということで大いび活用しているが、いつ出るのかということについて、もっとPRする必要がある。

研究者としては、本 + CDがあるとありがたい。

傾向がどういうふうになるのかというようなことを含め、速報の段階で簡単な分析をして発表することが必要。

月報については、他省や団体がいろんな統計を集めたものを出しており、収録する統計について整理することが必要。

月報にその月に出たトピック的な速報について、分析や解説的なものを付けると有用な情報となる。

EUのポケット統計のようなものは作れないか。

データベースはユーザが求める形で表示ができるようなオンデマンド型のものがないか。例えば、要求に応じ、毎日の市場の動きをグラフで表わしたり、貿易と為替の関係を表したり、所得の変化とコメ消費の変化等をグラフにしたり等がないか。

等の意見が出された。

座長からは、本日の意見は事務局の方で取りまとめていただくとともに、できるものはすぐにでも取り組むようお願いするとの発言があり、これを受け事務局は、個別メディアの改善に反映させていくこととした。